



平成 27 年 3 月 26 日

各 位

ウェルス・マネジメント株式会社
代表者 代表取締役社長 千野 和 俊
(コード番号:3772 東証マザーズ)
問合せ先 管理本部 グループ長 木村 健太郎
(電話番号 03-6661-9311)

特別利益の計上見込み並びに 平成 27 年 3 月期にかかる連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は特別利益を計上する見込みとなったこと及び直近の連結業績の動向を踏まえ、本日開催の当社取締役会において、平成 27 年 3 月期通期の連結業績予想を修正することを決議致しましたので、下記の通りお知らせ致します。

記

1. 特別利益の計上について

(1) 子会社（株式会社日本証券新聞リサーチ、以下「NSJR 社」といいます。）株式の一部譲渡について

平成 27 年 3 月 26 日付適時開示「子会社（株式会社日本証券新聞リサーチ）株式の一部譲渡及び特別利益の発生に関するお知らせ」に記載のとおり、当社は、当社子会社である NSJR 社株式の一部（議決権の 49.0%相当分）を当社親会社であるあかつきフィナンシャルグループ株式会社に譲渡することを同日付取締役会にて決議致しました。

本株式譲渡に伴い、平成 27 年 3 月期の通期連結業績において、NSJR 社の連結上の簿価と交付された対価との差額による特別利益 38 百万円を計上する見込となりました。

(2) 子会社（グローバルインベストメントマネジメント株式会社、以下「GIM 社」といいます。）の異動（株式譲渡）について

平成 27 年 3 月 26 日付適時開示「金融アドバイザー事業からの撤退、子会社（グローバルインベストメントマネジメント株式会社）の異動（株式譲渡）及び特別利益の発生に関するお知らせ」に記載のとおり、当社子会社であるリセス・マネジメント株式会社（以下、「RIC 社」といいます。）は、同子会社（当社孫会社）である GIM 社の全株式を NK グローバル株式会社に譲渡することを同日付取締役会にて決議致しました。

本株式譲渡に伴い、平成 27 年 3 月期の通期連結業績において、GIM 社の連結上の簿価と交付された対価との差額による特別利益 25 百万円を計上する見込となりました。

2. 平成 27 年 3 月期通期連結業績予想の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

（連結）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,478	228	160	111	26.84
今回発表予想 (B)	1,181	△58	△24	8	1.93

増減額 (B-A)	△297	△286	△184	△103	—
増減率 (%)	△20.1	△125.4	△115.0	△92.8	—
(ご参考) 前期実績 平成 26 年 3 月期	837	21	14	22	7.07

(注) 1. RIC 社及びGIM 社については、平成 25 年 7 月より連結の範囲に含めたことから、「(ご参考) 前期実績 平成 26 年 3 月期」は 9 か月間 (平成 25 年 7 月から平成 26 年 3 月まで) の損益を取り込んでおります。

2. 「1 株当たり当期純利益」の算出にあたり、「前回発表予想 (A)」「今回発表予想 (B)」ともに 4,136,100 株を期中平均株式数として用いております。なお、当社は、平成 26 年 2 月 7 日付の当社取締役会決議に基づき、平成 26 年 4 月 1 日を効力発生日として、当社普通株式 1 株につき 100 株の割合をもって株式分割を行っております。「(ご参考) 前期実績 平成 26 年 3 月期」の「1 株当たり当期純利益」につきましては、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し算出しております。

3. 平成 27 年 3 月期通期連結業績予想の修正理由

新聞・出版事業 (株式会社日本証券新聞社) につきましては、新聞の販売収入が計画値を下回って推移致しました。当該事業の収支を改善すべく、駅売り販売網の拡大及び新聞ネット版である新サービス「日本証券新聞 Digital (デジタル)」の提供開始を行い、固定費の削減等を進めました。しかしながらその販売収入の低下を補填するまでには至っておらず、当該事業においては当初業績予想値と比べ約 45 百万円の売上高の減少が見込まれます。

広告・IR 事業 (NSJR 社、株式会社日本証券新聞社) につきましては、主力である IR 支援事業の受託件数において、昨年末までは堅調に推移したものの、年明け後の 1 月から 3 月の間は伸び悩みました。その結果、当該事業においては当初業績予想値と比べ約 5 百万円の売上高の増加が見込まれます。

不動産金融事業 (RIC 社) につきましては、マスターレシーとしてのホテルの賃料収入が堅調に推移しておりますが、新たな不動産受託案件及び仲介業務やアドバイザー業務の大型案件の成約時期がずれ込むなどの理由で、当初業績予想値と比べ約 188 百万円の売上高の減少が見込まれます。また平成 27 年 3 月 26 日付適時開示「連結子会社 (リセス・マネジメント株式会社) におけるリースによる固定資産の賃貸借解約に関するお知らせ」に記載のとおり、軽井沢に所在するリゾートホテルのマスターリース契約が、賃貸人である所有者との間で当期末での合意解約に至ったことに伴い合意解約に伴う収入として 59 百万円の営業外収入が見込まれます。

金融アドバイザー事業 (GIM 社) につきましては、富裕層や機関投資家向けの資産運用にかかる投資助言・代理等の営業活動を展開してまいりましたが、収入増加には至らず、当初業績予想値と比べ約 22 百万円の売上高の減少が見込まれます。なお、平成 27 年 3 月 26 日付適時開示「金融アドバイザー事業からの撤退、子会社 (グローバルインベストメントマネジメント株式会社) の異動 (株式譲渡) 及び特別利益の発生に関するお知らせ」に記載のとおり、当社グループは金融アドバイザー事業から撤退することを同日付にて決議を行っております。

また、各事業会社の利益につきましても、不急な経費を削減することで経常利益の確保に努めておりますが、売上高の減少分を補填するには至らないものと予想されます。

これらを踏まえて、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益について通期連結業績予想を修正致します。

(注) 上記の業績予想等は、現時点における入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、今後の様々な要因により業績予想とは異なる結果になる可能性がございます。

以上